



三次トピックス

楽しく巡って地産地消 カフェ巡り×三次産米 第2回 miyoshiめぐりあいcafeスタンプラリープロジェクト



▲景品の三次きんさい米とカフェコニアの加藤さん

JA三次地域本部は米の消費拡大やPRに向け、三次市内のカフェを巡るイベント「miyoshiめぐりあいcafeスタンプラリープロジェクト2023」の景品の一つに三次きんさい

継続的な取り組みが鍵 環境保全活動へ寄与



6月上旬、3日間にわたり期限切れ農薬の誤使用や不法投棄の防止など、環境や安全に配慮した農業を促進するため農業用廃棄プラスチックやビニール、小農機具、期限切れ農薬、使用済み容器などの分別回収を行いました。利用者はJA職員から適切な分別などの指導を受け、利用者の環境保全意識の定着にもつながっています。利用者山森龍成さん(69)は「農業でどうしても出る廃プラや不要品など処分が難しいものを処理して頂けるので大変助かる」と話しました。JAひろしま三



▲廃棄物を運ぶ職員ら

次地域本部購買課 高尾裕二課長は「環境に配慮した保全活動の一環として、地域で安心して農業を続けていただくために、今後も継続して取り組んでいきたい」と話しました。

い米(こしひかりとひとめぼれ300gずつ)を200セット、無償提供しました。新型コロナウイルス感染症の影響で遠のいた観光客や利用者を集め、県内外の方に三次の魅力を知るきっかけづくりのため企画され、今年で2回目となりました。「カフェコニア」喫茶代表加藤ますみさん(46)は「気軽にコーヒーマグからでも楽しくカフェを巡って、景品の三次のお米も併せて三次の魅力に触れてほしい」と話しました。※スタンプラリー開催期間は終了しています。

アスパラガス収穫体験 「第3回あすなろう塾」開催



JA三次地域本部の農業塾「あすなろう塾」は6月1日、(株)JAアグリ三次の圃場で第3回の講座を開き、アスパラガスの収穫・選果実習を行ない17人が参加しました。同社の職員や農業研修生から収穫や選果のやり方を学んだ塾生らは実際にハウスの中で収穫作業を体験。収穫したアスパラガスは塾生自ら、同社の選果機を使い選別し、200g程度になるよう結束し、実際に産直市などへ出荷する荷造りを体験しました。

塾生の清水りほさん(30)は「アスパラガスが実際に栽培されている様子を初めて見て、収穫作業



▲収穫作業を体験する塾生(広島県三次市で)

稲作文化、鮮やかに再現 神杉大田植



▲代かきをする花牛

三次市の神杉地区自治会連合会と神杉大田植実行委員会とは同市高杉町の水田で6月11日、地域に古くから伝わる田植えを再現する催し「第18回神杉大田植」を開き、地域住民や関係者など約500人が集まりました。サンバイ(田の神様)おろしの神事を行なった後、華やかな装飾の花牛3頭が水田17aの代をかき、地域住民らサゲ衆14人が太鼓を打ち鳴らす中、専用の装束に身を包んだ早乙女40人が田んぼ横一列に並び、田植え唄やはやしに合わせ、もち米の苗を植えました。同会の会長の有田雅俊さん(73)は「神杉大田植が触れ合いの場として少しでも地域活性化に繋がれば嬉しい」と話しました。

を体験することができた。実際に自分でも栽培してみたい」と笑顔で話しました。

【土づくり】
翌年の良質米生産に向けて赤枯れ症などを軽減するため、稲刈り後は稲ワラ腐熟促進剤などを散布しましょう。また、土づくり資材等の施用を行ない、地力向上を図りましょう。
①稲ワラの腐熟促進剤…秋～春期（稲刈り後～3月）に稲ワラ腐熟促進剤を施用

使用回数	使用時期	10a当り使用量		適用場所	除草剤
		希釈水量	薬量		
1回	雑草生育期	50～100L	500～1,000ml	水田刈跡	ラウンドアップ マックスロード

【除草剤による雑草対策】
塊茎が増えるクログワイやオモダカは、稲刈り後、再度雑草が伸長し草丈20cm以上になった状態で、緑色の茎葉部に除草剤散布を行ない、塊茎の形成を阻害させましょう。

◎稲刈り後は、雑草対策や土づくりを行ない、次年度の作付けに備えましょう。

◎刈り取りは籾の黄化を確認し、適期刈り取りを行ない良質米生産に努めましょう。（収穫適期の目安は2023年JA三次水稲栽培こよみをご確認ください。）

水稲

◎刈り取り後の管理

- ・し耕うんする
- ・ワラクサール粒剤 15kg/10a 又は
- ・アグリ革命（細粒）2kg/10a
- ②土づくり肥料の施用（10aあたり）
- ・堆肥 1000kg
- ・ミネラルG又はケイカル
- ・毎年施用の場合 120kg
- ・隔年施用の場合 200kg

野菜

たまねぎ

◎播種時期から定植時期の管理

作型	品種の例	播種時期	定植時期	収穫時期
早生	マツハ	9月 中下旬	11月 上中旬	5月 上旬
中生	ターボ アトン	9月 下旬	11月 中旬	6月 上旬
中晩性・晩生	ネオ アース	9月 下旬	11月 中旬～下旬	6月 下旬

※マツハ、ターボ、アトン、ネオアースはタキイ種苗の品種です。

【苗づくり】
・本圃面積1aあたり、すじ播ぎで5m²、6m²程度の苗床が必要です。
※本圃面積1aあたりの定植本数の目安は2,500本～3,000本程度です。

基肥	土づくり肥料	時期	肥料	施肥量
前まで	1カ月前 2週間前	定植の	完全堆肥	200kg/a
化成1号	苦土石灰	定植後	2週間前	15kg/a
7kg/a	15kg/a	定植後	1週間前	200kg/a

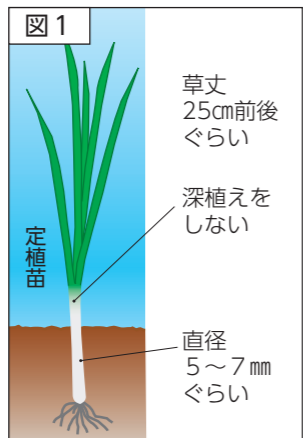
【定植圃場の準備】 施肥の目安

【播種後の管理】
・播種後から出芽するまでは、晴天が続くようなら、毎日かん水を行ない、土壌水分を維持しましょう。
・出芽以降も、土壌表面が乾いてきたらかん水を行ないましょう。

【播種のポイント】
・各品種の播種時期を確認し、早播ぎ・遅播ぎは避け、適期に播種しましょう。
・播種前日に苗床に十分かん水し、播種当日は、条間8cm～10cm、播種間隔1cm程度で、すじ播ぎをしましょう。
・厚播ぎにならないように丁寧に播種し、覆土は1cm以下となるように薄く行ないましょう。
・乾燥防止のため、苗床表面に、もみ殻、くん炭などを敷くとよいでしょう。

【苗床の施肥】
・土づくり肥料・基肥の施用後は耕うんし、土となじませましょう。

【定植】
・定植苗は、育苗日数が5日前後で、草丈が25cm前後、茎の太さが5mm～7mm程度、100本重量が370g～500g程度の苗が理想です。（図1）
・とう立ちを防ぐため、生育過剰の苗や、大苗での定植は避けましょう。
・畝幅135cm程度の畝に4条植えとし、条間20cm、株間は晩生品種で10cm、早生品種・中生品種で12cmを基準に植え付けましょう。



【定植のポイント】
・植える深さは2cm～3cmとし、葉の分岐点より上に土をかけないようにしましょう。
・定植後は十分にかん水を行ないましょう。
・定植後5日間程度は乾燥すればかん水を行ない、活着を促しましょう。

たんぼぼの会総会 三原会長を再任

ボランティア組織「ふれあい助けあい組織たんぼぼの会」は6月2日、三次市の農協会館で第27回総会を開き、役員改選で会長に三原明美氏を選任しました。総会は会員、関係者ら約50人が参加し、活動計画など3議案を承認されました。今年度も行政、社会福祉協議会など関係機関と連携し、地域のニーズにあった高齢者の生きがい活動、助け合い活動を展開していきます。

「たんぼぼの会」は1997年に組合員、女性部、地域住民が連携して発足。現在会員652人（2022年）が一部一福祉活動をスローガンに、管内18支部で福祉施設の草取り作業や手づくりプレゼントなど、地域に密着した福祉活動を行ない、様々な福祉活動を通じて、コミュニティづくりや高齢者福祉の活性化など、地域に確かな絆が生まれています。



▲開会の挨拶をする三原会長

吉舎支部・松岡ゆかりさん JA広島県女性組織活動 体験発表で優秀賞

JA広島県女性組織協議会は6月12日、広島市でJA女性組織活動体験発表会が開催されました。県内の女性部員9人がそれぞれの組織や地域の活性化に向けた活動について発表し、JAひろしま女性部三次地区本部吉舎支部の松岡ゆかりさんが発表され優秀賞を受賞しました。

松岡さんは、「フレミズは私にとっての吉き舎り」と題して、フレッシュミズ部会の活動の中で、人と人の繋がりの大切さや部員間の交流を通じて松岡さん自身も前向きに心境が変化していったエピソードを発表。フレッシュミズ部会の立ち上げに携わったことをきっかけに、日々の体験活動に加え、吉舎女性部員間で受け継がれてきたよもぎ粉づくりを体験する等、活動がJAや地域との関わりを広げていったことを紹介されました。



▲応援に参加されたみなさん

野菜当てクイズと 農業体験で楽しく交流 JA女性部三次地区本部フレッシュミズ部会



▲野菜当てクイズ

フレッシュミズ部会は部員間の絆づくりを目的に6月3日、部員らやその家族15人が参加し、農業体験の一環として昨年からはじめたサツマイモの定植作業を行ないました。今年

は農業に興味関心を持ってほしいとサツマイモの植え付けが終わった後、農業体験圃場に栽培されている野菜を題材にした野菜当てクイズも実施しました。ズッキーニやニンニク、玉ねぎなどすでに収穫間近な野菜からニンジンやトウモロコシなど、まだ植えて間もないものをクイズとして出題。参加した部員やその家族らは試行錯誤しながらヒントを参考に回答しました。参加した児童らは「ズッキーニが実際に成っている様子を初めて見た」「トウモロコシの苗ってかわいい」等、感想を話しました。同部会の松岡ゆかり会長は「部員間の交流を深めるきっかけづくりだけでなく、子ども達を含め食と農に興味を持つ機会になれば嬉しい」と笑顔で話しました。

JA女性セミナー開講

6月9日、三次市の農協会館大ホールで2023年度JA女性セミナーの開講式を行ない、受講生66人が参加しました。

同セミナーは、女性の資質向上と共に健康で明るく豊かな暮らしを築くことを目的に毎年6回の講座を開いており、昨年より20人余り多い受講者数となり、開講式の後に行なわれた第1回の講座では、体験講座として数種類の多肉植物を一鉢に植える「多肉植物寄せ植え」づくりを行ないました。受講生は数種類の多肉植物を選び、講師の指導を受けながら一人一人、想像を膨らませながら配置し、オリジナルの寄せ植え鉢を完成させました。



▲完成したオリジナルの多肉植物寄せ植え鉢と受講生

Information お知らせ

お知らせ

JAひろしま三次地域ぶどう振興協議会より

抽選で20名様に

三次産「ぶどう」1箱 (2kg入り)

プレゼント!

※品種、生産者の指定はできません



■応募期間 令和5年8月26日(土) ~ 9月8日(金) ※当日消印有効

■応募方法 郵便ハガキ又は各支店窓口にあります応募用紙に、住所・氏名・電話番号を明記の上、ご応募ください。
※ご応募はお一人様1口までとさせていただきます。ご記入いただいた個人情報(住所・氏名・電話番号)は、本キャンペーンの抽選、賞品発送を目的に利用させていただきます。

■応募宛先・応募用紙提出先

- 郵便ハガキ 〒729-6213 三次市廻神町3370番地
JAひろしま三次地域本部 営農販売課
JAひろしま三次地域ぶどう振興協議会事務局キャンペーン係 宛
- 応募用紙 各支店窓口

■当選発表 厳選な抽選の上、ご当選者の発表は賞品の発送(9月中旬~10月上旬予定)をもってかえさせていただきます。

■お問い合わせ先 事務局 JAひろしま三次地域本部 営農販売課 0824-66-3804

産地紹介

(JAひろしま三次地域ぶどう振興協議会)とは?

JAひろしま三次地域本部管内の三次ピオーネ生産組合、みらさかピオーネ生産組合、三次市ぶどう部会、ぶどうの里づくり部会の生産者で組織しています。

三次盆地の標高差と寒冷な気候を生かし7月の昼夜の温度差により着色が良く糖度も高くなるため、ぶどう栽培に適した環境となっています。

現在では約57haの面積で品種はピオーネ・シャインマスカット・安芸クイーン・ベリーAなどを栽培しています。



今後とも変わらぬご愛顧をいただきますようよろしくお願いいたします。
たくさんのおみなさま方のご応募お待ちしております!!

JAひろしま三次地域ぶどう振興協議会

(三次ピオーネ生産組合・みらさかピオーネ生産組合・三次市ぶどう部会・ぶどうの里づくり部会)

農業情報
番組の
ご案内



(株)三次ケーブルビジョンコミュニティチャンネル
農業情報番組ガイド 11ch

放送時間 7:00~7:15・12:00~12:15・19:40~19:55

放送日	内容	担当者
9月4日(月)~9月10日(日)	水稲刈り取り後の管理と白ねぎの栽培管理について	朝日
9月18日(月・祝)~9月24日(日)	秋まき野菜の栽培管理について	惣藤

※放送内容(予定)は変更になる場合もあります。

9月のお知らせ
カレンダー

9月23日(土・祝)
ふれあい活動
(訪問日)